

# 関西電力のテレビCM「浜辺（プルサーマル）篇」は虚偽宣伝です 苦 情 申 立

社団法人日本広告審査機構御中

関西電力のテレビCM「浜辺（プルサーマル）篇」に苦情を申し立てます

関西電力のテレビCM「浜辺（プルサーマル）篇」は、福井県高浜町の美しい白い砂浜で、元阪神タイガース監督の星野仙一氏が登場し、プルサーマルが資源の有効利用につながると宣伝しています。

しかし、このテレビCMは、サイクル図がぐるぐると回り、あたかも資源の有効利用であるかのような錯覚を視聴者に与えます。また、一度使用したプルサーマル燃料（使用済MOX燃料）の処分の方法等が何も決まっていないことにふれていません。

このテレビCMは、明らかに虚偽の宣伝です。

（テレビCM「浜辺（プルサーマル）篇」は、関西電力のホーム・ページ、下記のURLから「エネルギー・環境」をクリックして見ることができます。

[http://www.kepco.co.jp/media/cm/index\\_4.html](http://www.kepco.co.jp/media/cm/index_4.html) )

関西電力のテレビCM「浜辺（プルサーマル）篇」が虚偽宣伝である理由

## 1. サイクルはぐるぐる回りません

CMの冒頭に、「日本は資源の少ない国。子供達の未来も考えていかないとね」と星野氏が語りかけ、「プルサーマルの仕組み」が映し出されます。

この「プルサーマルの仕組み」は、添付の図のように、

- ・原子力発電所から生まれる使用済燃料は、
- ・再処理工場に運ばれて「プルトニウム」が抽出され、
- ・MOX燃料工場で、そのプルトニウムとウランを混ぜたMOX燃料が製造され、
- ・それがまた原子力発電所で使用されるというものです。

このサイクル図は、クルクルと回り、あたかも、このサイクルが何度も繰り返され、「資源の有効活用」であるかのような錯覚を視聴者に与えるものです。

このCMのサイクル図は、プルサーマルで使った使用済MOX燃料もまた、再処理工場に運ばれ、プルトニウムが抽出され、また原子力発電所で使用されるように見えます。サイクル図の中では、「使用済燃料」としか書かれておらず、通常の使用済ウラン燃料と使用済MOX燃料の区別も書かれていません。

実際には、一度使用したMOX燃料（使用済MOX燃料）は、再処理の目処もたっていません。通常の使用済ウラン燃料は六ヶ所再処理工場で再処理されることになっていますが、使用済MOX燃料は六ヶ所再処理工場では処理できません。使用済MOX燃料の再処理は、「第二再処理工場」で行うこととなっていますが、その検討は進んでいません。原子力委員会の近藤委員長は、今年秋に、「今後10年かけて検討する」と発言しており、「第二再処理工場」ができるのかどうかさえ決まっています。

よって、サイクルは何度も回ることはできません。そのため、このCMは、視聴者に誤解を与える虚偽の宣伝です。

2. 使用済MOX燃料の処理の方法が決まっておらず、やっかいな核のゴミが高浜町に居座り続けることにふれていません。

プルサーマルで使用した使用済MOX燃料は、高浜原子力発電所の使用済燃料プールに超長期にわたって保管されることになります。まず少なくとも50年間はプールで冷却しなければならず、その後も使用済MOX燃料の搬出先は決まっています。

- ・このCMは、このようなやっかいな使用済MOX燃料が、長期間、高浜町原発プールに貯蔵されることをまったく語っていません。
- ・CMには野球の練習をしている若者が登場します。彼らが一家の大黒柱になった頃にも使用済MOX燃料は高浜町に居座り続けます。
- ・今年生まれた子供が50才になって、既に原発は閉鎖されていても、使用済MOX燃料という核のゴミという負の遺産が残ることにふれていません。

これらのことにふれずに、「子供達の将来を考えた」として、プルサーマルが将来の子供達にすばらしい未来を与えるかのような虚偽の宣伝を行うことは許されません。このCMは、使用済MOX燃料というやっかいな核のゴミの問題を全く伝えておらず、虚偽の宣伝です。

以上の理由で、関西電力に強く改善を求めるものです。よろしくお願いいたします。

2010年12月22日

苦情申立人：5名